



会報 2020年6月号

日本ニュージーランド協会 (関西)
New Zealand Society of Japan, Kansai

創立1970年

We'll meet again Don't know where Don't know when
But I know we'll meet again some sunny day
Keep smiling through Just like you always do
Till the blue skies drive the dark clouds far away

(We'll Meet Again)

新型コロナウイルス感染問題は世界中に拡がりいつ収束するかわかりません。
創立50周年を迎えた当協会の活動も既に影響を受けておりますが、今後も残念ながら
続くようです。皆様は出来る限りの対策のもとご健勝にお過ごしいただくことをお祈り
申し上げます。総会は、会場変更しましたが、予定通り5月16日に開催いたしました。
詳細は2ページに掲載しております。恒例のラム肉例会は秋に延期いたしました。本
年度の活動は流動的になりますのでご了承をお願い申し上げます。時節柄ご自愛ください。
Stay home and We will meet again.



Otane Road, Hastings の秋 (松沼清司)

事務局：〒550-0002

大阪市西区江戸堀1-23-26 西八千代ビル3階C

電話・FAX：(06) 6607-2112

<http://nzsocietykansai.com> E-mail:nzsjk@yahoo.co.jp

2020年度会員総会 議事要旨

と き：2020年5月16日（土） 10時30分～11時00分

ところ：日本ニュージーランド協会（関西）事務局

新型コロナウイルス感染問題により予定していた中央電気倶楽部が臨時閉館となり会場を協会事務局に変更した。

出席者：貴志・中村・山下（明）・石井

今年度は、新型コロナウイルス感染問題の影響があり、事前に総会資料一式を会報3月号に同封し書面で審議できるようにした。会員総数59名（客員13名含む）の内46名が議決権を持つ。返送された33通の葉書を出席者が確認した。その結果、議案1・2・3に全員が賛成、反対はゼロ。過半数以上の賛成となり、議案は全て承認された。

議案1. 2019年度事業・決算報告

事業報告：例会 7回開催 参加者131名、会報 3回発行、年賀状送付

会議：総会1回、理事会5回、入会0、退会（荒田利男・平峯忍・後藤まゆみ・奥村和彦）

収支報告：収入856,886円（前年度よりの繰越金322,448円含む）

支出856,886円（次年度への繰越金311,722円含む） 単年度赤字10,726円

4月1日に中村・山下（誠二）監事2名の監査を受け、適正であると承認を得ている。

議案2. 2020年度事業計画・予算

事業計画：例会7回開催、会報3回発行

50周年記念事業 記念誌発行、マグカップ製作等

他協会との連携、会員増強

収支予算：収入915,224円（前年度よりの繰越金311,722円含む）

支出915,224円（次年度への繰越金268,724円含む） 単年度赤字42,998円

*新型コロナウイルス感染問題で活動に変更等が生じると予想されるが、安心・安全を前提に実施する。

議案3. 役員選出（総会で役員選出その後の理事会で役割決定）

名誉会長：柳田勘次、会長：石井久行、副会長：松元昇 山内龍男 貴志康弘

理事・事務局長：林園子、理事・事務局次長：山下明

理事：山田輝子 塙幸子 加藤進 *松沼清司 監事：中村重夫 山下誠二 *新任

入 会：平瀬拓也さん（山下明さんの紹介、昨年のラム肉例会等に参加）

■ 2020年度 第1回理事会の報告

と き：2020年5月16日（土）11時00分
～11時30分

ところ：NZ協会事務局（中村監事・事務所内）

出席：貴志・石井・中村・山下明

欠席の役員からは、当日までに意見を電話で伺い、出席者が出した結論に賛同するとの意向を得ていた。

内容：最初に総会の結果を受けて、役員の担当につき会則第6条にもとづき検討した。前年度最後の理事会（3月28日）で検討通りの結果となった。今年は、新型コロナウイルス問題、創立50周年等いろいろ大変な年になると予想されるが、ご尽力いただくことになった。松沼さんは新任、他の役員は留任。任期は2年間。

名誉会長：柳田勘次、会長：石井久行

副会長：松元昇 山内龍男 貴志康弘

理事・事務局長：林園子

理事・事務局次長：山下明

理事：山田輝子 塙幸子 加藤進

松沼清司

監事：中村重夫 山下誠二

- ・新型コロナウイルス感染の影響を受けているので安心・安全を優先して活動するが、秋ごろまで活動は出来ない情勢が続くとの予想もあった。
- ・会報6月号は、計画通り発行する。
- ・貴志さんからラグビーの元日本代表でNZでも活躍された坂田好弘氏を機会を見つけてお招きする提案があり検討する。
- ・新会員：山下明さん紹介の平瀬拓也さんの入会が承認された。

■ エリザベス女王からのメッセージ

女王は4月5日にビデオメッセージを発表し、新型コロナウイルスとの戦いに「きっと成功する」と呼びかけました。女王が特別な事態に際して国民に語りかけるのは即位68年の間で5度目です。女王は、第2次大戦時に英国で国民的応援歌として愛唱された「We'll Meet Again」の歌詞にちなみ、「きっとまたお会いします」と約束されました。スピーチの内容は同封資料をお読みください。また、NZ国民にもメッセージを送られましたのでご紹介します。メッセージは、ディム・パツィー・レディ総督により公開されました。

「前例のない事態の出来事による、生活の変化、家族や友人との離別、経済的な不安の中にいるニュージーランドおよびコモンウェルズのすべての人々のことを思っています。

自主隔離に応じて家にいる人たち、生活に欠くことのできない製品を供給している人たち、ケアが必要な人々をサポートしている人たち、皆さんに対する深い感謝の気持ちは尽きることがありません。コミュニティにおける各自の自覚、真心と献身により、ニュージーランドは必ずこの危機を克服することには、疑いの余地はありません。

Kia Kaha ,Kia māia, Kia manawanui

(Be strong ,be brave,be steadfast)

■ ラム肉調理・試食会

毎年5月に開催しておりましたが、10月頃に延期します。

開催が決まれば改めてご案内します。アンズコフーズから家庭料理研究家の館野鏡子さん（当協会設立年の1970年生まれ・元ピアニスト）作成のレシピをいただきましたので同封いたします。

Cook at homeのご参考にしてください。

■ 新妻免疫塾について

シリコンバレー在住の知人から紹介された新妻耕太さんは、スタンフォード大学で免疫学を研究されているポストドクの若い方です。筑波大学時代の教育実習・塾講師の経験を生かし解りやすくコロナウイルスについてユーチューブで解説されています。上海出身の夫人、Lu Xuさんと協力して中国語の解説もついています。

最初の「そもそもウイルスって何？」から「体を守る免疫の基本まで」各3分程度で親切な解説です。大学で多忙な研究生活を過ごしておられますが、貴重な時間をさいて、ボランティアで一般向けに情報発信されています。多くの解説書が書店に並びまた多数の情報がコンピューターで検索できますが、新妻さんの丁寧な解説は山中伸弥教授も高く評価されています。

(石井久行)

■ 外出自粛時におけるインターネット活用のすゝめ

外出自粛のためにインターネットを活用されたいと思われる方もいらっしゃるかと思い、この原稿は普段インターネットを利用されない方を念頭に置いて書きました。はっきり申し上げますが、「利用しなくていいなら、そのままで問題ない」です。その理由を3つ説明します。

1. 人間らしい時間の過ごし方を保つことができる

新聞やテレビでの報道は伝達できる情報量に限りががあります。新聞紙面上の制約は自明ですし、テレビは複数画面で放送しても人間が理解できる時間当たりの情報量には限りがあります。インターネットの場合、自分の知りたい情報に対して一次情報を量的に制限なく時間にとらわれずに何時でもアクセスできます。各国首脳のスピーチや政府機関の発表資料を、メディアを通さず、ダイレク

トに、様々な媒体（文章、画像、動画、数値データ）で、リアルタイムに取得できてしまうのです。自分自身もメールや SNS で時間にとらわれず情報を送受信できてしまいます。朝晩の新聞報道や手紙のやり取りでよかった時代がうらやましいです。

2. インターネットには情報があって誰でもアクセスできてしまう

インターネットには際限のない情報量（2020年の推定で440 垓バイト：CDならおよそ63兆枚に相当）にアクセスできてしまいます。情報の内容も、人間が発信できるものならば何でもあります。料理のレシピ（クックパッドに328万作品）、著作権が切れた文芸作品（青空文庫に1万点以上）、動画（youtubeに20億以上）、一生かかってもすべての情報に目を通すことはできません。ドナルドキーンが源氏物語の英訳にたまたま古本屋で出会った奇跡のようなチャンスは、今やインターネットを持つすべての人に与えられています。

3. 自分もデータにされてしまう

スマホが登場して以来、情報は受信するだけでなく送信することも簡単になりました。自分の撮影した写真や動画にコメントを添えて配信すれば、世界中いつでもどこからでもアクセスできる状態です。セクハラやパワハラ、組織ぐるみの隠ぺい工作や、一個人の小さな素晴らしい善行も晒されてしまうこととなります。各国首脳のスピーチも、政権に対するただの愚痴も、同じように発信されてしまうのです。情報が正しいかどうかも自分で判断しなければなりません。マサイ族の青年ルカは、マサイ族の生活をスマホで配信し、その印税で井戸を掘り、学校も立てました。マサイ族に比べてマオリは先進国の文明に地理的に至近距離で接していたからか、インターネットの普及前も情報は入手しやすかったように思います。しかし、発展途上国でも1人に1台インターネットにアクセスできる端末を持っていることは

当たり前になり、青年ルカの記事は世界中で配信（もちろん日本語でも書籍化）されるようになりました。世界中の格差がなかなか縮まらない中、情報にアクセスしたり発信したりする環境は国境を越えて平等になってきています。先進国に住んでいて努力なしに「自分は恵まれていないと思う／まずは自国の利益を」と不平を言う層がいるのも理解できますね。

いかがでしょう、以上3つの理由を読んでいただき、インターネットを利用することについて少しでも参考になれば幸いです。



(山下明)

■ オンラインによる語学レッスン

初めまして、平瀬拓也と言います。今回、ニュージーランド協会に山下明さんのご推薦をいただき入会させて頂くことになりました。よろしくお願ひします。昨年のラム肉例会、オーストラリア・デイ臨時例会に参加させて頂き、NZ協会のアットホームな雰囲気にお楽しみを感じました。NZにはまだ旅したことはありませんが、機会を見つけて行きたいと思ひます。

さて、昨今コロナウイルスの影響で外出を控えることが多いですが、私はインターネットを活用し、語学レッスンを受けています。皆様にご紹介しませう。

スカイプというアプリを使い、パソコンで講師と

私（生徒）が画面を通じ、顔を合わせながら会話するシステムです。テレビ電話ですね。パソコンの画面でお互いの表情を確認しながら、お話しできるのでコミュニケーションを図るのに支障はないです。また、画面も音声も常に安定しています。勉強している言語は、英語と中国語です。英語は以前、教室に通っていましたが、コロナウイルスの影響で現在はオンラインレッスンになっています。コロナウイルスが落ち着けば、また教室に通います。学生時代にオーストラリアに滞在していたこともあり、レッスンではフリートーク形式でやっています。お互いの趣味や海外体験談、時事ニュースを話の材料にし、楽しくおしゃべりしています。政治の話をすることもあります。意見が対立しても口論になることはないです（笑）。中国語はネットチャイというオンライン学校と契約し、講師を紹介していただいています。1回当たりのレッスンは25分間です。授業料は8レッスンで4900円です。ですので、1回当たり25分で600円です。大変良心的な値段です。また、講師は全員日本語が話せる中国人で、私の講師は北京在住の女性です。テキストを使いながら、日本語でレッスンを受けています。彼女は教えるが上手ですが、厳しいですので、こちらの学力不足で問題を正解できないときは、怒ることもあります（笑）。ただ、先生は喜怒哀楽が明確に出るので、コミュニケーションは図りやすいです。また、レッスン中は個人的な話をするのではないので、授業に集中することができ、不必要に気を使うことがないです。それもオンラインレッスンのメリットだと思います。語学勉強を通じ、お友達を探されている方は、教室に通われた方がいいかもしれません。私は引き続き、オンラインレッスンを続けます。以上のようにインターネットを活用し、安価で有益に語学勉強できます。皆様の中で、ご興味があれば、平瀬までお申し出ください。よろしくお願ひします。



(平瀬拓也)

■ Aotearoa やさしさの循環する国で

第2回

NZ のここが好き

各国からの移民が集う地元の Multicultural Centre (多文化センター) で、ニュー ジーランドのどこがいちばん気に入ってる?と聞いてみた。治安がいい、食べ物が新鮮でおいしい、安心して子育てができる。オーソドックスなものがまず並んだ。道ですれ違っただけのまったく知らない人がほほえみかけてくれる、も多くの人があげた。ニュージーランドでは向こうから歩いてきた赤の他人が、にっこりと笑顔を見せて通り過ぎるのは日常的な光景だ。知らない人からもらった笑顔で癒され、お返しに自分も見知らぬ人にほほえむ。パーソナルスペースがたっぷりある、人と人との物理的距離がゆったりしている、も多数上がった。わたし自身、日本にいたころは満員電車で通勤し、休日はどこへ行っても人でいっぱいという状況を息苦しく感じていたから、この答えには大いになぜか。では、好きじゃないものは?と聞いてみて、返ってきた答えに思わずふき出しそうになった。「思っていた以上に物価が高い」という切実なものとは、か、く、「のんびりしすぎ」、そして、「ハダシで街を歩き回る事」。原っぱや公園だけでない。ここではスーパーマーケットでも、大のおとなが裸足で買い物という姿を見ることがある。とりわけ夏場は多い。小学校の校庭や教室でも、

子どもの多くは裸足だ。靴は?と尋ねると「カバンにしまっただけ」と言うから、履かないだけで持っていないわけではない。制服がない学校では、夏はゴムぞうり (なぜか「ジャンダル (ジャパニーズサンダルの略)」という名で広く呼ばれている) を履いて通学する子どもも多いが、学校は特に問題にしない。キャンプなどの催しの時にのみ「爪先を保護する靴を履いてくるように」というアドバイスがあるだけで、基本的に自己責任である。学校行事の冬のハイライト、広い牧場を借り切って開くクロスカントリー (耐寒マラソン大会) では、男女問わずほとんどの児童が裸足で走る。雨の多い冬場は相当ぬかるんでいるうえ牛のフンだらけなので、靴を履いていると脚が抜けにくいらしい。ゴールにたどり着いたころには、自分自身とほかの生徒が跳ね上げた泥で、顔も体もドロだらけだ。年に一度のフォーマルなクラス写真を撮る際には「前日に保護者に『子供たちに靴を履かせて送り出してください』って言わないといけなくて」とは、ある小学校教師。「そうじゃないと、最前列にハダシの子どもの足もとがバッチリ映り込むからね」。



この日は全員が着替えと足拭きタオル持参。

韓国からの留学生 (左の二人) は靴を履いて走った。

出迎いの作法

ニュージーランド人の目には、私たち移民はどう映っているのだろうか。ある60代の女性は「国際空港での待ち時間に気がついたことだけ」と前

置きして話してくれた。到着する人の出迎え方に違いが際立つというのだ。確かにキウイ（ニュージーランド人）の挨拶はハグしてキスして握手して、とやたら身体接触が多い。それを見慣れた目には、同郷人を迎えるアジア人の様子が、いい悪いではなく異次元のものに見えるらしい。アジアからの旅客は長旅に加え、往々にして検疫で念入りな持ち物検査に見舞われる。ようやく全てをクリア、ぐったりとして待ち合わせ場所にたどり着いても、出迎えの家族（あるいは友人）はハグもキスもしない。挨拶もそこそこに「荷物を奪い取ったかと思うと、何もなかったように歩き出すんだよね」。もちろんそこには「疲れているだろうから、荷物は任せてね」「ありがとう」という、あうんの呼吸があるのだが、キウイにはどうもしっくりこないらしい。裏返せば、キウイ流あいさつはとりわけ日本人にはハードルが高い……はずが、わたしの両親はいつの間にか習得してしまっていた。これにはちょっと笑える理由がある。父はもともとの地黒にゴルフ焼けで拍車がかかり、髪も真っ白。もったいなくもマオリ族の長老と間違えられ、マオリ語で話しかけられることがたびたびあった。マオリのコミュニティでは年長者を敬い、姿を見れば率先して挨拶をする。長老っぽい見かけの父は、この「表敬」の的となり、次々に降ってくる挨拶に答えるうちに、母ともどもスキルが上達した、というわけだ。



伝統的なクロークをまとうマオリの長老たち（コマツウア）

2018.2 「Wikimedia Commons Rehua Marae」より

わたしの山、わたしの川

マオリ語（正式にはテレオマオリ=Te Reo Māori。テレオと略することも多い）は日本人に発音しやすいものが多い。日本人には発音の難しい F や V を使う単語がないのも有利な点だ。ちなみにわたしの住む Whangarei という地名は、ワンガレイではなくファンガレイである。地元の高校で日本語を教えていた時のことだが、英語を母国語とする生徒が苦労するのが「机」の発音。ローマ字表記にも一因があるが、耳のいい生徒をのぞいて、ほとんど「とうくいー」となる。「旅行」や「料理」といった、R で始まる単語も苦手。ISUZU のように S と Z が続くと、両方が Z になって「イ ズゥ ズ」になる。ところが四苦八苦する生徒が多いなか、Te Reo Māori を話す学生の日本語の発音はピカイチだった。わたし自身、教育大学(現 Canterbury University)で MihiMihi (ミヒミヒ。マオリの伝統的な自己紹介の作法)を学んだ時に、先生からマオリ語の発音のスジが良いと褒められた。種を明かせば、母音が語順こそ違え日本語と同じ5つ。しかもほとんどローマ字読みで通じる。だから、マオリ人にとっても日本語は発音しやすいのだ。

「ミヒミヒ」には面白い特徴がある。部族、出身地と名前に加え、「わたしの山は〇〇、川は△△」と、地理的な固有名詞を盛り込むのだ。マオリの文化では、個人個人が象徴としての「自分の山」「自分の川」を持つ。伝統的挨拶では、その地理的な立ち位置を、誇らしげに宣言するというわけだ。わたしは、地元神戸で裏山のような存在の六甲山を名乗った。昔は私たち日本人にも「自分の属する山」があったはず、と太古に思いを馳せる一方で、なぜか「わたくし、生まれも育ちも葛飾柴又です。帝釈天で産湯を使い…」というセリフを思い出し、一人ニヤニヤしてしまったが…。この「自分の山と川」を語れるようにしておくと、Marae (マラエ=マオリ人の伝統的な集会所で、会議はもちろん各種の儀式の場。観光コースに組み込まれることも多い) 訪問も一味違ったものにな

るはず。ダンス観賞とハンギ料理だけで終わってしまっはもったいない。カタコトでいいので、ぜひ Te Reo Māori を使ってみてほしい。「Kia Ora!」(キオラ=こんにちは)と「Kakite Ano」(カキテアノ=じゃあ、また)はその第一歩だ。

ニュージーランド わたしの第一歩

初めてニュージーランドを訪れたのは1994年、3世代の家族4人時という顔ぶれだった。ゴルフ好きの父の希望で Christchurch のハグレー公園のゴルフ場に通ううち、年配の日本人から、母が行きたがっていたファームステイの情報をもらった。クリスマスが近くなっていたが、バンクス半島の田舎にあるという広大なファームへ移動するため、予定を変更して市内のモーターを引き払った。到着して間もなくクリスマスの日を迎えた。ファームの主人は孫や娘たちとクリスマスディナーに出かける、と言う。「ぜひ一緒にと考えたけど、この時期はレストランがいっぱいで、二人を追加できなかつたの。ごめんなさい」と言い残し、夫妻はおめかしして揃って出かけて行った。ディナーと呼ぶものの、実際はランチタイムにとるという習慣も不思議だったが、出会ったばかりのお客の私たちに、文字通り家を丸ごと預けて出て行ってしまったことに驚いた。それより以前、北欧でB&Bに滞在した時に似たようなことがあつたのを思い出した。チェックアウト前日、宿の主人は「明日は仕事で早く家を出る。あなたたちは、朝食を食べたらドアに鍵をかけて出てね。鍵はドアマットの下に入れておけばいいから」と言った。「おとな」として合理的に行動し、他人にも全幅の信頼を寄せる。キウイもまた、同じだと知つた。楽しい滞在も終わろうかというころ、帰国を目前にした1995年の1月、阪神大震災が起きた。田舎で暮らす人たちの情報源は主にラジオ。神戸で大地震、と聞いても映像がなく、にわかには信じられなかつた。不安で顔色の変つた様子を見た宿の主人は、私たちが車に乗せ1時間以上運転して、国際

ニュースを流しっぱなしにしているパブに連れて行つてくれた。大きなスクリーンに映しだされた被害の様子を見た両親が「関空が閉鎖になる前に帰国する」と言うと、宿の主人は自分の古いリュックを引っ張り出した。毛布や缶詰食糧を詰めると、きつと誰かの役に立つから持って行け、と背中を押してくれた。キウイの素朴で温かな行動に、ひと昔前の日本を思い出す、という人がある。確かにこれまでに暮らしたヨーロッパや北米、中南米でも経験したことのない、どこか懐かしい感覚を味わうことが多い。寄付やボランティア活動への参加はとても活発で、暮らしの一部にもなっている。国籍に関係なく、困つた人がいれば多くの人が駆けつけて手を差し伸べる。「助け合い」なんて面映い言葉を口にしなくても、身体が先に動くのだと思う。人々は圧倒的に優しい。この優しさは社会の中で、ゆっくり循環している。ファームの宿の主人は「ここに必要なだけ居てもいいよ」とも言つてくれた。実際、高齢の祖母を残して両親は帰国し、わたしは当時住んでいたヨーロッパに戻るのをやめ、祖母と二人でさらに1ヶ月の間ファームに残ることになった。この滞在が、わたしのニュージーランド移住を方向づけた、と言つても過言でない。初渡航の前に「どうしてニュージーランドに行きたいの？」と母に問うたことがある。「HIVに感染した少女のテレビドキュメンタリーを見て」と母。感染が原因でオーストラリアのコミュニティでは居場所のなかつた少女が、ニュージーランドに来ていかに温かく受け入れられたか、というような内容だった。20年以上も昔の話である。「わたしもその人たち(ニュージーランド人)に会つてみたいの」と母は言つた。突拍子もないリクエストだった。その提案があつたからこそ、わたしは今、新しい家族に囲まれてここにいる。

*ニュージーランドはマオリ語で アオテアロア 「ao」は雲、「tea」は白い、「roa」は長いという

意味で、つなげると「白く長い雲のたなびく地」となる。平屋が多く、空を遮る障害物は圧倒的に少ない。車で数分ドライブするだけで視界がひらける。その先の空に、どこまでも広がる白い雲が好きだ。

(さかいケイツ・みか ファンガレイ在住)

■ Do you know Mr. Stephen T.Colbert ?



米国の俳優・コメディアン・作家、1964年首都ワシントン生まれ、名門ノースウエスタン大学在学中から劇団活動を始め卒業後は本格的に芸を磨いた。パロディーニュース番組「ザ・ディリーショー」に1997年から出演、現在は、毎週月曜夜11時30分からCBC放送の「ザ・レイト・ショー・ウィズ・スティヴン・コルベア」の司会として社会の様々なテーマを辛口でユーモアあるトークで番組を仕切っています。多彩なゲストとの会話のやり取りも人気がありますが、私は半分も理解できません。トーク番組では、1948年から1971年の長期にわたり放送された「エド・サリバン・ショー」が有名で、雪村いずみ、ザ・ピーナッツ、ジャニーズ等が招待されました。



アーダーン首相とコルベア氏

当時、アメリカ文化に関心ある人たちは興味を持って観ていたそうですが、日本での放送期間は短かったようです。S. コルベアの番組にはNZのジャシンダ・アーダーン首相が2回登場しました。2度目の時、アーダーン首相は、空港まで出迎えるので是非NZに来るように招待しました。そして昨年秋にコルベア氏はオークランド空港へ着き、約束通り首相自らマイカー（ヒュンダイの大衆車）を運転して出迎えました。車内でも会話が盛り上がり首相の自宅では釣りとお魚が好きなパートナー（クラーク氏）も登場しBBQを楽しみました。コルベア氏はNZ各地を巡り、自身の番組で5回シリーズにてNZの魅力を紹介しました。米国では勿論、NZでも番組は評判でした。この時の様子はYouTubeで観ることができますので、時間のある方はどうぞお楽しみ下さい。

(石井久行)

■ 会報 2019年10月号の訂正と追記

昨年10月発行の会報に“川瀬初代会長没後20年をふり返る”として故人を偲ぶ、私の思い出が掲載されました。その後記事の内容につき、事務局長として故人と付き合いの長い前会長の呉橋氏から種々ご指摘を頂きました。私の知らないことも、また記憶違いもありますので、お詫びし、訂正をさせていただきます。

1. “阪神競馬場で開催されたエリザベス女王杯の招待券”と記述してあるが、1996年9月開催のオークランド杯である。
2. “川瀬さん作曲の交響曲がその後演奏されたとは聞かない”と記述してあるが、2000年と2009年にクライストチャーチ・ユースオーケストラが演奏した。
3. “ジャパンフェスティバルをオークランド中心に何度か開催”と記述してあるが、オークランドではなく、クライストチャーチで5回、ウェリントンで4回であり、協会は開催者ではなく、現地

の実行委員会における日本での窓口を担当した。
1992年7月にクライストチャーチで開催された時の日本側渡航者は760名、また同年8月に同じくクライストチャーチでの開催では516名が渡航されており、それらの約5%は川瀬さんの知己である。尚、少なかったが、現会員のなかには当時参加し、日本文化の紹介などに貢献された方もおられる。

4. “他都市のNZ協会は、姉妹都市交流の縁で発足したものが多く”と記述してあるが、姉妹都市と無縁のNZ協会の方が多い。

(山内龍男)

■ 第280回例会のお知らせ(予定)

とき：10月の土曜日10時30分～14時

ところ：こうべ市民福祉交流センター

中央区磯上通り3-1-32

078-271-5310

美味しくて、健康にもよいNZ産ラム肉を楽しみましょう。

定員：35名 締め切り：未定

参加費：2500円

協賛：アンズコ・フーズ(株)

申し込み：nzskj@yahoo.co.jp

090-1955-2566(松元)

開催日等詳細は、後日お知らせします。

■ 会報について

6月号へのご意見・ご感想などを事務局へお寄せください。

次号(10月号)へのご寄稿もお待ちしております。締切：9月18日(金)

宛先：nzsjk@yahoo.ne.jp

■ 年会費について

会報3月号で6月末までに振り込みをお願いしておりますが、まだ約3分の1の会員からは振込みをいただいております。ご協力をお願いいたします。 3000円

・ゆうちょ銀行 記号 14110

番号 56529351

普通口座 5652935

名義 日本ニュージーランド協会(関西)

手数料はご負担ください。

・他行からの振込 店名 エニイチハチ

店番 418

・2名の会員の方から50周年記念として、寄付金8,000円をいただいております。有益に使わせていただきます。

■ 会員名簿 (5月31日現在)

石井久行 市田利夫 伊藤美登利 井上知治

井上佳久 加藤進 亀井学 貴志康弘

木田佐智子 喜田靖夫 北野和夫 呉橋真人

小林さや子 酒井香代子 佐藤敏 武田耕造

太津隆司 谷川紗季 外山純 中谷紀子

永田美夜子 中村重夫 西川賢一 西原博子

服部雅裕 林進 林園子 塙幸子 日高隆義

日根野文三 平瀬拓也 藤野紀子 藤村琿子

堀江敏樹 牧初代 正木紀通 松村明 松沼清司

松元昇 三浦治郎 森川和代 柳田勘次

山内龍男 山下明 山下誠二 山田輝子

山野敏子 アレキサンダー・ベネット

イアン・フォーロン 片波見徳将 小西靖基

佐藤慎平 酒井・ケイツ・ミカ

ジョン・ハンドルビー スーザン・マーシャル

ピーター・オービン ピーター・マシウス

ロウクロフト・真弓 ケイコ&クレイグ・ローム

(敬称略)